

フジツボ類が付着した生きたハナマルユキダカラガイの 3例目の個体

Shin KUBOTA and Hidetomo TANASE: The third specimen of a living *Ravitrona caputserpentis* (Mollusca, Mesogastropoda, Cypraeidae) on which shell surface a barnacle attaches

久保田 信・田名瀬英朋

はじめに

これまで和歌山県田辺湾産のハナマルユキダカラガイ *Ravitrona caputserpentis* (LINNAEUS) の生きた2個体にフジツボ類が付着していたのを報告した(久保田, 1997; 久保田・山口, 1998)。その後、新たに1個体の同様の例を発見したので報告する。

1999年6月17日、田辺湾内の畠島の北岸に近接した岩礁でシュノーケリング観察の際に、水深1mの岩のくぼみで見られた生きたハナマルユキダカラガイ(殻高34.4mm)に、サンカクフジツボ *Balanus trigonus* DARWIN (殻底の直径11.3mm)が1個体付着していた。フジ

ツボは、貝殻の後部右背側面に付着し(図1)、比較的良好に成長していたが、既に死亡し、軟体部も蓋板も脱落していた。

引用文献

久保田 信, 1997: 貝殻表面にフジツボ類あるいは石灰藻が付着した生きたハナマルユキダカラガイ(軟体動物門、中腹足目、タカラガイ科). 南紀生物, 39 (2), 125-126.

久保田 信・山口寿之, 1998: 貝殻表面にフジツボ類と石灰藻が着生したハナマルユキダカラガイの生貝(軟体動物門、中腹足目、タカラガイ科). 南紀生物, 40 (2), 181.

京都大学フィールド科学教育研究
センター瀬戸臨海実験所
(〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町臨海)

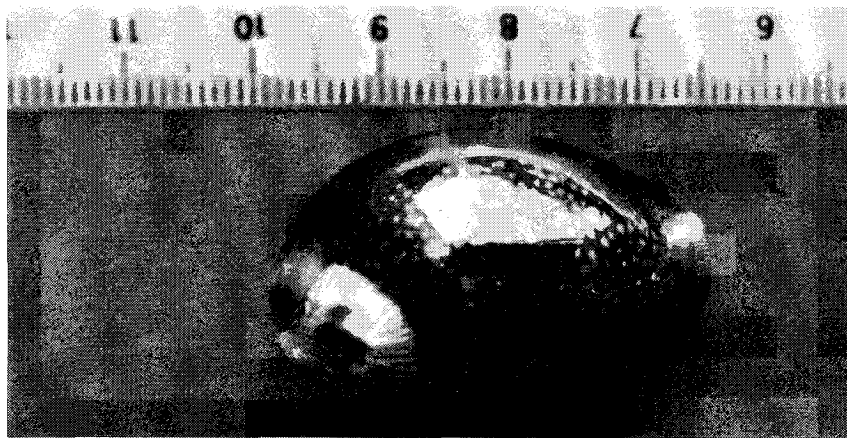


図1 生きたハナマルユキダカラガイに付着していたサンカクフジツボ

Fig.1. A living *Ravitrona caputserpentis* on which shell surface *Balanus trigonus* attaches.